

ピース・ウイング長崎 会報

へいわ

127号

■財団法人長崎平和推進協会 〒852-8117 長崎市平野町7番8号 ■電話(095)844-9922 FAX(095)844-9961

<http://www.peace-wing-n.or.jp>

- 平和祈念式典関連写真、長崎平和宣言
- 国際平和シンポジウム
- チェルノブイリから長崎へ
- 長崎国際平和映画フォーラム2010報告
- TOPICS
- 第4期生平和案内人募集
- 評議員会、理事会報告
- 市民のつどい
- 長崎原爆戦災誌翻訳監修委員会



国際平和シンポジウムにおいて、当協会継承部会の和田耕一さんの被爆体験をもとに当協会音楽部会のつだけいこさんが脚本、演出を行った朗読劇の様子（5ページに関連記事）

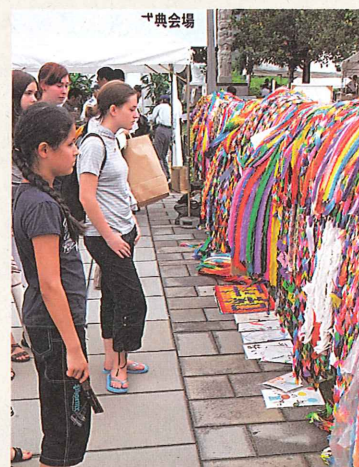
長崎市広報広聴課提供



核兵器のない世界へ

～人々の祈り、長崎から～

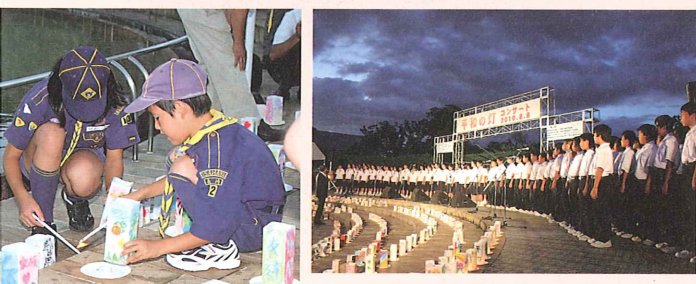
65年目の夏、祈念式典会場とその周辺で原爆犠牲者の冥福を祈り、核兵器のない平和な世界を目指して、様々な行事が行われました。追悼平和祈念館交流ラウンジでも、式典の様子を放映しました。



8月5日
潘基文国連事務総長来崎
潘基文国連事務総長が現職として初めて長崎を訪れ、原爆落下中心地碑前で演説し、核兵器廃絶に向けた決意を発信しました。



当協会職員もキャンドル制作指導や、運営スタッフとして参加しました。



8月8日
平和の灯キャンドルライトアップ
コンサート

当協会写真資料調査部会が追悼平和祈念館において原爆写真展を実施しました。



8月2日～8日原爆写真展
「長崎原爆を撮ったカメラマン」

一部の写真は長崎市広報広聴課提供

長崎平和宣言

長崎市長 田上 富久

被爆者の方々の歌声で、今年の平和祈念式典は始まりました。

「あの日を二度と繰り返してはならない」という強い願いがこもった歌声でした。

1945年8月9日午前11時2分、アメリカの爆撃機が投下した一発の原子爆弾で、長崎の街は、一瞬のうちに壊滅しました。すさまじい熱線と爆風と放射線、そして、燃え続ける炎……。7万4千人の尊い命が奪われ、かろうじて死を免れた人びとの心と体にも、深い傷が刻みこまれました。

あの日から65年、「核兵器のない世界」への道を一瞬もあきらめることなく歩みつづけ、精一杯歌う被爆者の姿に、私は人間の希望を感じます。

核保有国の指導者の皆さん、「核兵器のない世界」への努力を踏みにじらないでください。

今年5月、核不拡散条約（NPT）再検討会議では、当初、期限を定めた核軍縮への具体的な道筋が議長から提案されました。この提案を核兵器をもたない国々は広く支持しました。世界中からニューヨークに集まったNGOや、私たち被爆地の市民の期待も高まったのです。

その議長案をアメリカ、ロシア、イギリス、フランス、中国の核保有国の政府代表は退けてしまいました。核保有国が核軍縮に誠実に取り組まなければ、それに反発して、新たな核保有国が現れて、世界は逆に核拡散の危機に直面することになります。NPT体制は核兵器保有国を増やさないための最低限のルールとしてしっかりと守っていく必要があります。

核兵器廃絶に向けて前進させるために、私たちは、さらに新しい条約が必要と考えます。潘基文国連事務総長はすでに国連加盟国に「核兵器禁止条約」の検討を始めるように呼びかけており、NPT再検討会議でも多くの国がその可能性に言及しました。すべての国に、核兵器の製造、保有、使用などのいっさいを平等に禁止する「核兵器禁止条約」を私たち被爆地も強く支持します。

長崎と広島はこれまで手を携えて、原子爆弾の惨状を世界に伝え、核兵器廃絶を求めてきました。被爆国である日本政府も、非核三原則を国是とすることで非核の立場を明確に示してきたはずですが、しかし、被爆から65年が過ぎた今年、政府は「核密約」の存在をあきらかにしました。非核三原則を形骸化してきた過去の政府の対応に、私たちは強い不信を抱いています。さらに最近、NPT未加盟の核保有国であるインドとの原子力協定の交渉を政府は進めています。これは、被爆国自らNPT体制を空洞化させるものであり、到底、容認できません。

日本政府は、なによりもまず、国民の信頼を回復するために、非核三原則の法制化に着手すべきです。また、核の傘に頼らない安全保障の実現のために、日本と韓国、北朝鮮の非核化を目指すべきです。「北東アジア非核兵器地帯」構想を提案し、被爆国として、国際社会で独自のリーダーシップを発揮してください。

NPT再検討会議において、日本政府はロシアなど41か国とともに「核不拡散・軍縮教育に関する共同声明」を発表しました。私たちはそれに賛同すると同時に、日本政府が世界の若い世代に向けて核不拡散・軍縮教育を広げていくことを期待します。長崎には原子爆弾の記憶と爪あとが今なお残っています。心と体の痛みをこらえつつ、自らの体験を未来のために語ることを使命と考える被爆者がいます。被爆体験はないけれども、被爆者たちの思いを受け継ぎ、平和のために行動する市民や若者たちもいます。長崎は核不拡散・軍縮教育に被爆地として貢献していきます。

世界の皆さん、不信と脅威に満ちた「核兵器のある世界」か、信頼と協力にもとづく「核兵器のない世界」か、それを選ぶのは私たちです。私たちには、子供たちのために、核兵器に脅かされることのない未来をつくりだしていく責任があります。一人ひとり弱い小さな存在であっても、手をとりあうことにより、政府を動かし、新しい歴史をつくる力になれます。私たちの意志を明確に政府に伝えていきましょう。

世界には核兵器廃絶に向けた平和の取り組みを続けている多くの人々がいます。長崎市はこうした人々と連携し、被爆地と心をひとつにした地球規模の平和市民ネットワークをはりめぐらせていきます。

被爆者の平均年齢は76歳を越え、この式典に参列できる被爆者の方々も、少なくなりました。国内外の高齢化する被爆者救済の立場から、さらなる援護を急ぐよう日本政府に求めます。

原子爆弾で亡くなられた方々に、心から哀悼の意を捧げ、世界から核兵器がなくなる日まで、広島市とともに最大限の努力を続けていくことを宣言します。

2010年（平成22年）8月9日

第4期生平和案内人を募集します

平成17年度から活動を開始しました「平和案内人派遣事業」も、今年で6年目を迎えました。

被爆者の高齢化に伴い、被爆の惨状を語ることができる人が少なくなっています。「平和案内人」事業は、原爆や平和に対する理解を深め、被爆の実相を広く後世に伝えることを目的に、人材の育成に取り組んでいます。その一環として、長崎県内の児童生徒や県外からの修学旅行生、一般団体の方々に、長崎原爆資料館や国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館、被爆建造物等などの案内を行っております。現在は105名が登録し、昨年度は約3万人の方々をご案内いたしました。

平和案内人の認知度が年々高まる中、3年ぶりに平和案内人育成講座を開講いたします。育成講座では、被爆体験講話を通して被爆者の心を感じるとともに、原爆後障害や核問題について専門家から学ぶほか、班別で原爆資料館や被爆建造物等を実際に巡り、ガイドに必要な知識を習得します。

被爆の実相を多くの人々に伝えるために、一緒に活動しませんか。この機会に、ぜひご応募ください。



<講座内容>

期 間：平成22年11月27日(土)～平成23年3月1日(火)の火曜日・土曜日

時 間：火曜日18：30～20：00、土曜日13：30～16：30（原則）

※基本的に、火曜日と土曜日の開催です。

回 数：全15回（予定）

※12回以上出席した方のみ修了生として平和案内人に登録できます。

場 所：長崎原爆資料館 平和学習室ほか
(長崎市平野町7番8号)

応募資格：満18歳以上（高校生は除く）で、平成23年5月からの平和案内人活動（ボランティア）に参加できる方。

申込方法：チラシの裏面の申込用紙に必要事項をご記入の上、郵便またはFAXでお送りください。

申込締切：11月1日(月)必着



育成講座の様子

「核兵器廃絶への道」2010ナガサキ

国際平和シンポジウムが開催される

継承部会員・和田さん原案の朗読劇も上演

長崎と広島で毎年交互に開催されている国際平和シンポジウムが、今年は8月7日(土)に長崎ブリックホールの国際会議場で開催されました。「核兵器廃絶への道」2010ナガサキ」をテーマとして、当協会、長崎市及び朝日新聞社の主催で開かれたもので、約三百五十人が参加しました。

会議は、前半に国際原子力機関(IAEA)の天野之弥事務局長、



河野洋平前衆議院議長が基調講演を行う様子



天野之弥 IAEA 事務局長

河野洋平前衆議院議長を迎えての基調講演、続いて高校生一人署名活動や高校生平和大使に参加した高校生2人の対談が行われました。天野事務局長は講演の中で、「唯一の被爆国出身の局長として、核のない世界に向けた動きへの支援を強化する」内容の4項目からなる、「ナガサキ・コミットメント(長崎での約束)」を発表しました。後半では、田上長崎市長や核不拡散などに詳しい米スタンフォード大学のスコット・セーガン教授、内閣府原子力委員会委員長代理の鈴木達治郎東大客員教授、民主党核軍縮促進議員連盟事務局長でもある平岡秀夫内閣府副大臣、それにコーディネーターとして大軒由



パネル討論の様子

写真は長崎市広報広聴課提供

敬朝日新聞論説主幹を加えたパネル討論がありました。討論では、核廃絶の機運が高まっては来ているものの、核拡散の恐れや核抑止力への依存が強く残っている状況の下、国際社会はどう行動するべきか、行政や市民レベルでは何ができるのかなど、パネリストから多様な提言が出されました。また、シンポジウムの冒頭では、当協会継承部会員の和田耕一さんの原案で、音楽部会の手掛けた朗読劇「チンチン電車の詩」が初めて上演され、非常に強いインパクトを与えました。(表紙写真)

公益財団法人へ 向けて準備進む

評議員会、理事会にて
新定款などを承認

公益法人制度改革に合わせて、当協会では今年度中の公益財団法人への移行認定を目指して準備を進めています。9月2日に評議員会、9月6日に理事会をそれぞれ開催し、移行後の公益財団法人としての基本ルールとなる定款をはじめ、役員の報酬等に関する規程などこれに付随して必要な諸規程など承認しました。また、移行後の最初の評議員となるかたについても8月3日に開催した選考委員会の中で25名の評議員が選任され、そのことについても理事会に報告されました。

新定款、諸規程等が理事会で承認されたことにより、いよいよ公益財団法人へ向けた移行認定申請を10月には行うことと、進めてまいります。



チエルノブイリから長崎へ

長崎・ヒバクシャ医療国際協力会（NASHIM）は、在外被爆者及び世界各地で発生している放射線被ばく事故による被災者の救済を目的として1992年（平成4年）に設立されました。

以来、世界のヒバクシャ医療に貢献するため、長崎が有する被爆者医療の実績や調査研究の成果を生かし、国外からの医師等の受入研修や国外からの被爆者の渡日治療、ヒバクシャ医療に関する専門図書の発刊、在韓被爆者への医療充実のための支援など積極的に取り組んできました。

その中でもNASHIMは、チエルノブイリ原発事故による被災者の医療支援を中心的事业と位置づけ、毎年ロシア、ウクライナ、ベラルーシから研修生を受け入れ、1



来日した4名

ヶ月余りの研修を行っています。

さらに、平成18、20年度にはチエルノブイリ原発事故の影響で甲状腺がんを発症した医科大生を長崎に招へいし、研修や県民・市民との交流会を行い、現地におけるヒバクシャ医療の担い手になる学生たちに原爆被爆者医療の実態を学んでもらいました。

この度、3回目となる医科大生招へい事業を行い、8月6日（金）国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館で市民との交流会を行いました。ベラルーシ医科大学ワシーリー・ルノデク副学長をはじめ、ベラルーシ医科大学から2名、ゴメリ医科大学から1名の計4名が来日し、それぞれが、自身の甲状腺がんの闘病体験を語りました。また、その他にも、市民から質問がなされ、活発な意見交換会が行われました。

「長崎・ヒバクシャ医療国際協力会（NASHIM）山口 勇次」



市民からの質問の様子

国連軍縮週間 「市民のつどい」

日時：10月30日（土）10：00～13：00
場所：原爆資料館前階段下

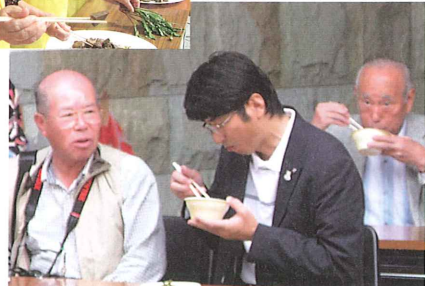
「環境にやさしい紙風船」「折り鶴」「綿菓子・ポップコーン」コーナーもあります。
※折り鶴は、国連や米国大統領などに送っています。



戦時食コーナー (県地域婦人連絡協議会)



団子汁やふかし芋など戦時中の食糧事情が体験できます。



『原爆被爆写真展』(写真資料調査部会)

被爆写真を長きにわたって研究している部会員から説明を聞くことができる貴重な写真展です。

祈念館だより

「長崎国際平和映画フォーラム2010」が開催されました

国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館（祈念館）では、去る7月23日（金）から25日（日）にかけて、祈念館交流ラウンジ及び原爆資料館ホールを会場として、「長崎国際平和映画フォーラム2010」を開催しました。この平和映画フォーラムでは、映画という映像の発信力を通じて、広く被爆の実相を伝えながら平和実現への機運を盛り上げていくことを目的として、開催期間中、計14本の国内外の作品が上映されました。そのほか、映画監督と市民との意見交換会、歌



上映の様子



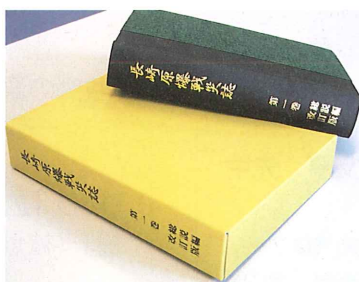
監督との意見交換会の様子

手・加藤登紀子さんのトーク&ミニライブやピースバトン・ナガサキの被爆体験朗読会が、特別企画として実施されました。

今回、祈念館として初の試みだったこともあり、事前PRや運営面でなかなか行き届かない点もあつたかと思えますが、猛暑の中にもかかわらず連日多くの方にご来場いただき、来年度以降もぜひ継続的に開催してもらいたいのご意見もたくさんいただきました。来年度以降も開催していくこととして、この平和映画フォーラムが幅広い世代を通じて長崎全体に広がりをもせるものとなるよう、内容の充実と積極的なPRを図っていきたくと考えています。

「長崎原爆戦災誌翻訳監修委員会」が発足し、第一回目の委員会が開催されました

祈念館では、原爆被害の実相をより広く世界に伝えていくために、長崎市が被爆60周年を記念して発刊した「長崎原爆戦災誌第一巻総説編改訂版」の翻訳（英訳）事業に平成18年度より取り組んでいます。



長崎原爆戦災誌

この英訳版の一般公開に向けては、原爆、戦争、歴史、文化等に関する専門用語など英語表記の適切さの確保などについて慎重な調査、検討を加える必要がありますが、有識者で構成される「長崎原爆戦災誌翻訳監修委員会」を設置し、この調査、検討を進めていくことにしました。

そして、次の皆さまに監修委員に就任いただきました。

土山 秀夫氏（元長崎大学学長）
ブライアン・パークガフニ氏（長崎総合科学大学環境・建築学部長）
三根 真理子氏（長崎大学大学院医歯薬学総合研究科原爆後障害医療研究施設准教授）

田崎 昇氏（長崎大学留学生センター 非常勤講師）

去る7月20日（火）に第1回目の委員会が開催され、互選の結果、土山元長崎大学学長が委員長に就任されました。また、委員会の席上、今後の具体的な監修作業の進め方について議論がなされました。

この監修委員会は、月1回のペースで開催していくことにしていますが、監修作業が終了した部分の英訳については、祈念館ホームページ上で順次公開を行っていく予定です。



第1回翻訳監修委員会

被爆者健康講話のお知らせ

今年6月に開講し、来年3月まで全10回に渡る「被爆者健康講話」の10月以降の講師とテーマが決まりました。

生活習慣病の話から、薬の効き方や体重のコントロールの仕方など身の回りの健康の話など、長崎大学大学院の先生方によるわかりやすい講話です。被爆者以外の方もご参加いただけます。前日まで祈念館へご連絡ください。

- ◆会場：追悼平和祈念館地下1階研究室
- ◆時間：15:00～16:00
- ◆申込：(095) 814-0055

第5回 10月21日(木)

あなたは大丈夫? 「転ばぬ先の……」
関谷 悠以 先生

第6回 11月18日(木)

生活習慣病を知ろう-脳梗塞編-
新川 哲子 先生

第7回 12月16日(木)

血圧について 高村 昇 先生

第8回 1月20日(木)

おくすりアラカルト-正しい薬の使い方-
平良 文亨 先生

第9回 2月17日(木)

こころの健康-あなたのストレス発散法は?-
寺岡 征太郎 先生

第10回 3月17日(木)

骨と健康 高村 昇 先生

新刊紹介

原爆資料館図書販売コーナーで、新たに取り扱い始めた本を紹介いたします。

当協会初代理事長である秋月辰一郎氏の代表作である「死の同心円」他5点です。被爆の実相を知るうえで、貴重な作品ばかりです。是非お買い求めください。



「死の同心円 - 長崎被爆医師の記録 -」
秋月辰一郎著
長崎文献社
1,680円
本年6月に復刻し、再出版されました。

「長崎市地図 昭和20(1945)年8月」
出口輝夫作 525円

「神の涙 広島・長崎原爆 国境を越えて」
デイビッド・クリーガー詩集 1,500円

「長崎・そのときの被爆少女
-六十五年目の雅子斃れず-」
横手一彦 編著 1,680円

「牧師の涙
-あれから六十五年老いた被爆者-」
川上郁子 著 630円

DVD「広島・長崎における原子爆弾の影響」(被爆直後の記録フィルムです。)
日映映像 5,040円

この他多くの書籍を販売しております。詳しくはホームページをご覧ください。

会員数報告

◎維持会員	1、246名
◎賛助会員	172名
◎学生会員	12名
合計	1、434名

平成22年9月10日現在

寄付者紹介

ありがとうございます

◎岩本 千枝子	千円
◎山本 昂	一万円
◎匿名	六千円
◎松下 美榮子	一万二千元
◎匿名	二千元
◎匿名	五千元

(敬称略)

会費納入のお願い

当協会の活動は、みなさまの会費に支えられています。今年度まだ会費を納めていない方は、何卒趣旨をご理解いただき、郵便局でお支払いくださいますようお願いいたします。